

大村 純一さん
Omura Junichi

【大町区】

おおむら じゅんいち / 令和5年4月に甲佐町商工会青年部長に就任。10月1日に開催予定の「甲佐蚤の市」の企画・運営にも携わる。

子どもたちのために活気ある ふるさとを未来へつなぐ

「子どもたちが甲佐町に残りたいと思ってもらえるまちにしていきたい」と話すのは、甲佐町商工会青年部長の大村純一さん（大町区）。商工会青年部とは、商工会

の事業を積極的に推進するとともに、地域の振興・発展など新しいまちづくりに取り組む組織のこと。「青年部は、地元を盛り上げるために活動する若手商工業者の集まりと

言えると思います」と話す。

大村さんは自営業の傍ら、甲佐町商工会青年部として本町のイベントである「あゆまつり」や「甲佐町産業文化祭」でも「二ラ飛ばし」や「アユのつかみ取り」に携わり、地域のイベントを盛り上げる役割も担う。10月1日（日）開催予定の「甲佐蚤の市」もそ

のひとつで、大村さんは立ち上げの時から参加している。「来場者が甲佐町で1日を過ごしてもらい、このまちの人の『あたたかさ』を感じ、移り住んでもらえたらという思いでスタートしました」と当時を振り返る。手探りで始めたというこのイベントも今年で11回目を数え、昨年は約2万人と甲佐町の人口の2倍近くの来場者が訪れた。

「今年度は美里町商工会青年部と話し合い、美里町との連携を模索してきました。今回の甲佐蚤の市がどのような形で実施できるかは未定ですが引き続き町単体では難しいイベントにも、両町の強みを活かして取り組んでいきたいです」と町を超えたつながりを意識しつつ新たな取り組みに挑戦する。

本町の振興になくはない存在の青年部だが、部員数の減少が深刻だ。大村さんが入部した16年前は30人ほど

いた部員も、現在では14人。「決して楽とは言えませんが、人との付き合いが多く、そういったつながりが家業にも活かされています。なによりも同じ志を持った仲間とともに何かを成し遂げたときはとても嬉しいですし、やりがいを感じますね」と笑顔を見せる。

「子どもたちがこのまちのあたたかさに触れながらイベントを体験して、大人になり笑顔で甲佐を語ってくれれば嬉しいですね」と話す大村さんはにぎわうこのまちの未来を見据えている。



▲昨年の「甲佐蚤の市」で店主との会話を楽しむ来場者